
夕陽は太陽

アクア

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

夕陽は太陽

【Nコード】

N6400B

【作者名】

アクア

【あらすじ】

楓、綾音の純粹な気持ち。恋愛をテーマにしたお話。過去、思い出、学生時代の喜び、悲しみ、仲間…。未熟者ですが、時間があれば是非、読んでみて下さい。

第1話 楓と綾音の花見デート編（前書き）

純粋な恋愛をテーマにしたお話しです。ただ私自身ベターな恋愛話好きです。是非見て下さい。

夕陽は太陽

第1話 楓と綾音の花見デート編

おはよおございますう！只今学校に遅刻しそうな僕！みかみかえで三神楓です！
全速力でチャリンコとばしてます。

『どいてえ！遅刻しちゃうよお！』

キーン コーン カーン コーン

やっぱ遅刻だし『こらあ！また遅刻かあ！』トホホつす
朝から先生に捕まり説教…。朝からついてない。でも窓から見える桜は綺麗だなあ。

そう楓は入学してまだ間もない高校生なのです。

『はあく疲れたあもう嫌だあ。』

バシッ！いきなり後ろから不意打ち！

『いてえなあ！なにすんだよお！俺、疲れてんだぞ。』

『遅刻するのがいけないんしょお！』もう一撃！バシッと！そう
この子が僕の天敵！加藤綾音かとうあやね子供の頃からの幼なじみ！活発で元
気な明るい子！僕には……

と！まあ毎朝こんなパターンで朝が過ぎてくもんです。

授業も終わり帰りの支度をしてると…『楓！帰るよん。』

『おう！』

てな感じでいつも一緒に帰ってる今日この頃。
陽気もポカポカで気持ちいい感じだった。

『楓？桜綺麗だねえ。お花見しないと……ね？』

『……2人で？』

照れを隠すかのように、顔を合わせないように呟いた。

『嫌なん？』

少し怒り気味に……

やべえ！怒ってるう！行きたいけど、なんか恥ずかしいよなあ！
困った……。

『どーすんのよ！』

やべえ！でも怒ってる顔も案外可愛い……。

『……行きますう』

『うむつ。』

と、いきなり！

『楽しみだねえ！』

無邪気に笑う綾音、可愛いなあ。目をそらすように照れを隠した。

土曜日（＾・＾）／

やべえ！またしても寝坊！綾音にまた怒られるう！

そう今日があのお花見の日！

チャリンコで猛ダツシュ！

あれ？綾音の姿が……？

バシツ！……学校でも休みでも一緒じゃん…。

『また寝坊？女の子を待たせちゃダメなんだよ？わかった？』

『はい！』

情けない……。

でも満開に咲く桜の中に立つ綾音は桜に負けないくらいキレイだった！たった数秒だった！でもゆっくり時間が流れた気がしました。学校とは違って女の子っぽい綾音がそこにいた。

『こちら辺でいいかなあ？』

案の定、周りは大人でいっぱい！僕達みたいな子供は場所取りとかもしれないといいところも取れずに端っこに座った。

『じゃあん！お弁当だよ（^-^）！美味しそうですね？』

ニコニコと上機嫌な綾音。本当に楽しみだったんだなあ。

『すげえうまそう！これ誰作ったの？』照れ隠しにふざけてみた。

『こらっ！綾音が作ったの！』

桜とその笑顔に僕は……

夕陽は太陽

日も傾き始めた頃

『そろそろ帰ろっか。』

『そだね。今日は楽しかったねえ。』
ゴミをテキパキ片付けながらポソッと呟いた。

僕も周りのゴミを集めてまわった。

ちょうど夕陽が落ちかける時間だった。帰りの途中、ベンチがあったのでゆっくり座った。

『桜もいいけど夕陽も好きだなあ。』

『綾音も夕陽好きだなあ。』

そのまま少し話してました。

日も暮れて暗くなってしまった。

『もういいよ？一人で帰れるから。』

『いや！送るよ！』

『大丈夫だよ？』

『大丈夫じゃない！なにか合ってからじゃ遅いだろ！』

田舎だけあって電灯があまりない。これがまた怖い！

幼なじみだけあってお家も知ってたから男を見せるため？いやいや、ちゃんと送るのが男ですからあ！

『今日はホントありがとね。』

「僕もホント楽しかった」
少し離れがたい自分がそこにいた。

「また……」

綾音がなにか呟いた。少し小声で僕は聞き取れなかった。
「ん？どした？」

「あ、いや何でもないよ。お休みなさい」
少し照れたような感じで手を振りながら玄関に入ってしまった。

なんだったんだろうなあ。鈍感な僕は女の気持ちもわからないまま
ま花見デートが終わった。

デートって事、わかったのかなあ？鈍感な楓君でした。

楓、綾音の

花見デート編 完

第1話 楓と綾音の花見デート編（後書き）

読んで頂きありがとうございます。ベタベタな恋愛にしたいので嫌いじゃなければまた、宜しくお願いします。

夕陽は太陽

第2話 綾音の気持ち（前書き）

前作、幼なじみの楓と綾音。高校生になって初めてのデート！その後の綾音の心の変化をテーマにしたお話です。純粋な恋愛です。是非読んでみてください。

夕陽は太陽

第2話 綾音の気持ち

『おはよお！綾音です』

昨日はお花見とても楽しかったです。

でも、楓は鈍いつて言うか何て言うか……。『バアカ！』って感じ
じです。

あ！自己紹介します。加藤綾音^{かとうあやね}16歳。身長152センチ。サ
イズは、な・い・しよ。

今、朝ご飯の支度手伝つてまます。うちはお母さんと妹、ひなた
の3人家族です。え？お父さんは？ん〜、正直記憶がほとんどない
！と言うかわからなあい。まっ！それは置いて朝は忙しいの
でテキパキとね！

まだ、楓寝てるのかなあ？どおせ寝坊するんだろなあ。
『あつ！もうこんな時間だあ！あ〜ん。もうやだあ！』

チヨット考え事しているとすぐ時間足つちやいますねえ。

『ひなた？行くよ！』

『待つてよ。お姉ちゃあん！』

『お母さん？行ってきまあす。』

とつ。いつも慌ただしい朝なのでしたあ。

ひなたを小学校に送つてから綾音も学校に向かうのだあ！

『みんなあ！おはよお！』

『おはよ！綾音。』
『おはよ！梓。』

おつとお！紹介します。小川梓綾音の大親友なのだあ。
おがわあずさ

『おはよ。綾音さあ？昨日どうだったの？桜デート！』

かなり興味信心な感じで目がキラキラしていた…

やっぱり来たあっていうか…話さないといけないよねえ…
『え？んぐ、まあ。ね！』ニコニコ。

『はい？そんなんでわかるわけないでしょうよお！』

『なにになに？なんかあったん？』

あ、集まって来たあ……。

こつこつ時の女の団結力はとても怖いものでしてえ…
…なんか目がキラキラときめいてますう…。恥ずかしい。
『え？お花見行って来たよ。…楽しかつ…た…よ？』
『ええ！もしかして付き合ってるのお？』

『ないよ？ないない。』結局そつちになるう。

キーンコーン

カーンコーン

『だあ！セーフ？セーフでしょ？』

楓だあ。またギリギリだあ…。いつも先生に怒られてるのにこり

ないなあ…。

『綾音？なに楓見て微笑んでるの？』

『はい？梓？な、なに言ってるのかしらねえ？』

はあく。なんか周りの視線を感じてしまう。気が抜けません…。

『おはよ！綾音。どした？なんか変だぞ？』

『ああ！お、おはよ…。』

『あれ？熱あんのか？顔赤いぞお？』

『いいから早く席に着きなさいよお！』 あれ？何で怒ってるんだろ…。あれえ？

『なんだよお…。具合悪いんなら無理するなよ？』

席に向かう楓を横目で見ながら…

違う！違うよ？怒ってない！あれえ？……………泣きそう。

思ってる事とやってる事がめちゃくちゃじゃあん。え〜ん

ガラガラ！

『おはようございます』

先生だあ！

『起立！礼！着席』

どうしよお…。

嫌われたかなあ…

『加藤？加藤綾音？』

！！『はい！』

『朝から寝ぼけてんのか？』

あはははっ！

『すみません。。。』 ……え〜ん。

朝から良いことないよお…：…：

梓が異変に気付いたのか心配そうな顔で…。

『大丈夫？さつきはごめんね？ちやかしたりして…。』

『ありがと。。。』

梓はわかってくれてるよね？え〜ん…

授業中もなんか集中できなかったなあ…。

今日は一人で帰るお…。楓と帰りたい。なんか切ない…。

『綾音！チヨット待てよ！』

楓が走って来た。

『なんだよ！今日どうしたん？』

心配してくれてる…。あ！また顔赤くなっちゃう。

『何でもない！今日急ぐから先に帰るね！また明日ね…。』 なん
で？っ、辛い…。苦しい…。泣きたい…。走ってその場を去った。

楓の心が遠のいていく気が…：…：し…：た…。

どんどん離れていく…。

楓。綾音を止めて！目に涙が…こぼれ落ちた。

バツ！肩をつかまれた！楓だっ！

『待てよ！なんか変だっ…：…：！なんで涙…！』

楓も異変に気付いた！

『ごめんね？綾音、自分でもどうしていいかわからないの……。』
涙が止まらない！嬉しかった。楓が来てくれた…。それだけでなんか素直になれる自分に気付いた。

『あのね…！？』

何かに包み込まれてた…。

楓だ！楓がギュツと強く抱き締めてくれた。

あ！涙が止まらない！

『我慢しなくていいよ。』

止まらなくなった……。
目を真っ赤にし、周りを気にせず泣き続けた。楓の胸を借りて泣き続けた。

『ごめんね、ごめんね……。』

楓は何も言わず強く抱き締めていてくれた。

夕陽だけが僕達を祝福してくれているような気がした。

綾音の気持ち 完

第2話 綾音の気持ち（後書き）

読んで頂き有難う御座います。私自身も純粋な気持ちを忘れないよう生きて行きたいものです。また、純粋な楓、綾音を書き続けたいと思います。宜しくお願いします。

第3話 楓の小言(前書き)

前作 綾音の心境に続きNo.2、楓の小言!相変わらずチヨットずれてる楓君!でも結構好きです。良かったら読んでみて下さい。

夕陽は太陽

第3話 楓の小言

『おはようございます。三神 楓です』
『あ！もうこんな時間かあ！こんにちわ。』

かなりの寝坊で学校休んじやいましたあ！

だって、昨日あんな事になっちゃって男としては眠れるはずもな
く…。そんな経験ありませんか？

そう、昨日朝学校行ったら綾音の反応がいつもと違っててなんか
調子狂っちゃったよ。

いつも元気が取り柄の綾音が朝から冷たいって言うか素っ気ない
って言うか…。

やっぱ彼女？いやいや…友達としてはちょっと心配って言うかほ
っとけなかつたんよ。

でも可愛いかったなあ…。にっ！

俺の事、好きなんかなあ？チヨットカッコ良かったかなあ？俺の
胸で思いつきり泣けよ！みたいなあ！

でも女の気持ちって難しくってよくわからん……。はあ。

タイミング悪く休んじやったよなあ…。なんか明日とか会いにく
いって言うかどの顔下げて行こう…。ガーン！

まっ！気にしてもしゃあない！

あつ！そうだあ！自己紹介するの忘れてたね！名前はいいとして、俺んち、オヤジ、おかん、はるな春菜妹、の4人家族なんよ！

なんかウルサイ家族で…でも案外楽しかったりもする。綾音も子供の時からの友達で…保育園からかあ。懐かしいなあ。

そうそう！保育園の時、俺、綾音にめっちゃくちやイジメられてたみたいなんだよね…。え！今も？…泣

い、今はもう大丈夫だよ！って事にして？

保育園、小学校、中学校、高校、長いなあ。なんか…。まっ！いいや。

なんかいつも一緒にいる感じだね。

おっと！何気に爆弾発言みたいな事言っちゃったあ…。

付き合ってる訳でもないのにこんな事言っちゃいかんよねえ…。

俺、…。言っちゃおかなあ！前から綾音好きなんだよね…。あちいあちい…。

内緒だよ？綾音には！照れたあめちや照れたあ！

だから昨日は、告白しちゃおう！って思ったりもしたけど涙見ちゃうと何も言えなくなっちゃって…情けないねえ。

でも……。

まあ！なんとかなるさあ！

ピンポン。……ピンポンピンポンピンポン

ああ。もうこんな時間！親共働きって事知ってるから鳴らしたいほうだい……。

春菜は部活でいないし1人で充実してたのに……。

爆弾娘、見参ってとこですかあ？

後はご想像にお任せします……。はあく。多分いきなり殴られるんだろうなあ……。

まっ、いつか！

んじゃまたね！

たっ たっ たっ たっ た！ガチャ！『はい！』ピタァン！

『いてえなあ……』

夕陽は太陽

楓の小言 完

第3話 楓の小言（後書き）

読んで頂き有難う御座います。いつになったらくつつくかわからない状況！でもこんな恋愛好きです。また、どんどん書きますので良かったらまた、読んで下さいね。有難う御座いました。

夕陽は太陽

第4話 絆、その先に…（前書き）

今回は綾音のこと少しほっぽりすぎたかな？楓と祐也の過去が見え隠れした作品です。読んでみて下さい。

『おまえら付き合ってるの?』

小声で言ってきたのは、真田祐也まなだゆうや中学からの友達。サーファーの甘いマスクをした男。

『バカっ!んな訳ねえだろ!』

めちゃくちゃもてるいい男!でも気がきくできた人間だ。結構気が合う仲間の1人だ。

『H・R終わったらちょっと話そうぜ。』

なんか面白いカモ見つけたって顔してるよ…。

『なによ、いいけど…。まあ、聞きたい事はだいたいわかってるけどね!』

『祐也が思ってるようにはいかないぜ。』

チヨットもてるからって思い通りには行かないって事教えてやる!

まっ!綾音も友達と楽しそうにしてるからいいかあ。

『どした?』

わかっていても一応聞いてみた。『わかってるっしょ?なにもったいぶってんだよ!』

『つで、どうなん？』
煙草に火つけて語りモードに入った。（おっとお！煙草は20歳
すぎたらですよ！）

『どおって…。何が？』

『はあ？バカじゃん？加藤の事だよ！好きなんでしょ？ん？』

たちわりい……。

『な、な、なに言ってるんだよ……。』
わかっていてもドモってしまったあ……。

『それより祐也はどうなんだよ……。』

話をすり替えてやるう。

『俺？俺は適度に運動！適度に遊びだよ！』

また、遊んでるだけ……。

『おまえなあ！祐也はいいけど相手は可哀想だろお！影で泣いてる
ぞ？』

『お、俺はいいんだよ。俺は……。』

キーンコーン

カーンコーン

『あつ！チャイムだあ。行こつか。』

ほっ……。

とは言つたものの……。女の事本気で好きになれるのかなあ……。でも、俺は俺で前に進むしかないよね！……冷たいかなあ……。

なんか胸がモヤモヤするつて言うかスッキリしないなあ。
窓越しに外の桜を見ていた……。

っんっん……！

『真田君と何話してたの？あや気になるううう。』

コイツは……。無視！

っんっん！グサツ！

いてえ……。

『授業中だろあ！後で話すから……。』

・
・
・

授業も終わり……

『か・え・で。』ニッコツ。

『一緒にか・え・ろ。ね？』

『う、う…ん…。』　なんか可愛いけど小悪魔的笑顔…。

『どうしたの？授業中、外ばっか見てて…。なんか心配事？』

女ってこういう時やけに鋭い感じだなあ。

『チヨット祐也の事なんだあ…。』

綾音にもさすがに言えないな…。

『ん〜？そつかあ。男の子同士の話だもんね！』につ。

俺の気持ちを悟ったのかそれ以上この事に触れる事はなかった。

ごめんね…。

秘密にしてる訳じゃないんだ。ただ…。

ごめん。

やっぱり2人になるとチヨット緊張するな。

でも最近、少し、ほんのチヨットずつ2人の距離が近づいている
ような気がした…。

夕陽に照らされた影はもう寄り添っているのに…。

第4話 絆、その先に…（後書き）

読んで頂き有難う御座います。なんか波乱万丈な予感がしてきました…。皆さんでどうか見守ってあげて下さい。まだまだ続きますので宜しくお願いします。

続編 絆、時間の波（前書き）

絆！続編です！祐也の事を気にし過ぎて綾音の事を…。優しい楓の気持ちにふれた作品です。読んでみて下さい。よろしくお願いします。

夕陽は太陽

続編 絆、時間の波

……で？

…えで？

『楓？』

綾音が呼んでいた…。

『ん？ごめん…。何？』

祐也の事で少し考え事をしていた…。

『…………。』

綾音が心配そうな目で俺を見ていた。

『ごめんな？なんか頭から離れなくて…。』につ。

『うん…。』

苦笑いになつてるよ…………。

なんかずっと元気ないなあ…………。

楓はいつもそう。友達となんかあると1人で考え始めちゃう癖あるんだよねえ…。

『そうだあ！ねえねえ！ベンチすうわる。ね？』

今日は、ヤケにひとけがなく寂しい公園だった…。

『どうしたのぉ？元氣ないよ？』

『そんな事ないよ。』
笑って見せた。

あ！……………。なんか力になってあげたいな…。でも、どうして
いかわからない…。

時間だけが過ぎていった…………。

『ただいまぁ…………。』

『あら、お帰り…………。どうしたの？元氣ないわねえ。』

『ん…………。チョット部屋行ってるねえ…………。』

結局、私は何も出来なかった…。何も言えなかった。

はあ…………。

電話してみようかなあ…………。

受話器に手をかける…………。ガチャ。

同じかなあ…………。

『 ちょっと散歩行ってくるねえ。』

『 こんな時間にどこ行くの!』

『 ……コンビニー!』

なんかいてもたってもいられなくなった。……気づいたら楓のお家の前だった。

…なにしてるんだろお…。

『 おい!何してんだよ!』

後ろから男の声…。

え…!

コッ…コッ…コッ…

え…!やだあ!

『 加藤かあ!こんな時間に何してんだ?やっぱり付き合ってるんだろお!おまえら。』

『 え……。真田君だったんだあ…。驚かさないでよお。泣きそうだったんだよ?もう。』

痴漢かと思つたよお。泣きそう…

『 ……。』俺の話聞いてねえ…。

『真田君はどうしたの？こんな時間にい…。』

『こんなつて…。』

まだ7時だぞチョップ！ビシイ！あはっはっは！楓がこいつつうから来てやったら、おまえがここにいたんじゃねえか！一緒に入るか？』

『え！いいよ…。』

何でチョップするかなあ…。痛かったしい。でも、チョット入りたい気もお…。

『んじゃ、俺は行くぞ…チョップ！バシイ！じゃな』

綾音いじつてるとおもしれえ！

『いたいなあ！もう…。いつちやったあ…。』

こんな時間にい、こんなトコいるほうが可笑的いよね…。逆に怪しいかあ…。

今日もうかあえるお…。夜は冷えますねえ…。ブルツ！

『……………ね！』

『綾音！』

ん？この声って…

『綾音！こんな時間に何でここにいるんだ？』

『こんな時間につてまだ7時過ぎだチヨップ！バシイ！
やったあ！』

『いてえ……。こんな暗いトコ1人じゃ危ないって言ってるのぉ！い
てえなあ。』

『行くぞ！』

『綾音を家まで連行します！』

ギョツ！

手繋いでるう！

顔、絶対赤い！胸がトクトク言ってるう……。
チヨツト嬉しかった。

『……真田君は？』

『俺の部屋に捕獲中だよ！だからあんま遅いと何しでかすか……。』

真田君より私を優先してくれたって事なのかなあ？……キヤツ。

『なあ綾音？俺久々見るんだけど……。』

『え？今日夕方まで一緒にいたじゃん！』『ち、違うよ！星！最近、全然見てなかったなあ…。ホント綺麗だなんて…。』

『そうだねっ…。』

『…今日、ごめんな？』

『ん？何が？』

『ん！なぐんでもない…。』

楓、わかっててくれてたんだ。その気持ちだけで嬉しいよ。

楓とずっと見ていたかった。キレイなお星様をこのまま……。

月の光がこんなに明るいと……。思っても見なかったです。

お月様…、こんな大切な時間ありがとう。また、2人で見れますよおに！

絆、時間の波 完

続編 絆、時間の波（後書き）

有難う御座います。結局、祐也より綾音だったのかなあ。手まで繋いでるしね。次回も続編です。よかったらまた、読んで下さい。ありがとうございます。

続編 最高の絆（前書き）

続編、絆の締めとして男の語りで締めました。楓と祐也の過去が少しずつ見えてくる作品。時間がありましたら是非読んで下さい。

夕陽は太陽

続編 最高の絆

綾音を家まで送り返し、少し余韻に浸っていた…。

なんか清々しい風が僕を包み込んだ。

この夜の星空の下で僕は自然と自分を出していた気がした。

『心地いい…。』

『…何が心地いいだよ…。』

『!………祐也?』

祐也が木に寄りかかりながら煙草を吸っていた。

『青春っていいなあ…。よっ!』

笑顔で近づいてきた!

『まあ、明日は休みだ!今夜は楽しくなりそうだなあ!』

めっちゃ笑ってるよ……。もしかして、ずっと見ていた?

『とりあえずお宅んち行こっか?』

『いつからいたんだよ…。?』

『まあまあ、そんなに急ぐなってえ。』

ちよ〜こえ〜…

・
・
・

『楓さあ、おまえら付き合えば？すげえいい感じだったじゃん？今も昔も。』

なんだ？ふざけてくると思ったら結構真剣な顔して話すなあ…。

『……。どうなんだろうなあ…。』

音楽を流していても耳には届かなかった…。

『祐也は…どうなん？』

『ん〜…。じゃ〜ん！び〜ルウ！』

『どっ、どっから出してんだよ！』

『たまには飲みたい時もあるじゃん？楓の祝福もかねて…。なっ！』
(お酒も煙草も二十歳からです)

『まだ、決まった訳じゃないよ…。まだ、引きずってるのか？ん？』

『……。』

外を眺めていた。
『まだ……。』

祐也が小声で何か呟いた。
『……。』

俺は祐也が心開くまでは祐也に付き合おうと……。一緒に乗り越える
と心に誓った。

『お…。悪いな。なんかしんみりさせちゃって……。』

学校では明るく振る舞ってても心にはずっと……。

『明日さあ、墓参りでも行くかあ？俺等2人で行ったら絶対喜ぶぜ
？。』

『バカかあ？加藤がどう思うよ？相変わらずネジ外れてんなあ……。』

ぶっ……。あははは……。

『ちょうど1年か？』

『もうそんななるか……。』

『あの頃は良かったなあ……。』

今でも、目をつむれば鮮明に浮かぶ景色……。

『そう、楓！昔っから加藤と2人になるとお地蔵さんになるよなあ
！くっくっく……。』

何年一緒にいんだよなあ！女慣れしてないって言うか…ぶううっ！

『なあに思い出し笑いしてんだよ…。ちえっ！』

『でも、楽しかった！4人でさあ、海行ったじゃん？楓、足つってさあ……ぶはああっ！』

俺を笑いもんにしたいのか…。

『祐也なんかよ、浣腸とかいって、いきなり優希にやったらおもいつきり、グウで殴られただろ！』

あっ！ヤバい事言っちゃったかなあ？

『…そうそう…。あれは誰よりも痛かった…。痛かったよな……。』

…祐也はずっと外を見ていた。
肩を震わせながら…。

『無理すんなよ…。』

『……。はあ。』

『誰かが覚えててやらねえと可哀想だろ？俺は、俺等は、俺等だけは絶対忘れちゃいけないんだよ！忘れちゃ……。』

『わかってるよ……。』

『俺も後悔はしたくない……。』

綾音には言えないよ……。綾音の辛そうな顔、あの時で終わりだ。もう見たくないよ……。

今夜は、長い夜になりそうだ……。でも、ここまで、さらけ出してくれる仲間って人生の中でどの位いるのだろうか……。素で話あえるのがホントの友達だと俺は思う。

今夜は、眠れなさそうだ。だけど、大切な時間だ。

思い切り泣き、笑い、最高の宴にしよう！なっ！優希……。

続編 最高の絆 完

続編 最高の絆（後書き）

読んで頂きまして有難う御座います。祐也の本音。引きずっている存在、優希。色々ありましたね。次回、昔に帰ってそのストーリーにふれたいと思います。よかったらまた、読んで下さいね。有難う御座いました。

夕陽は太陽

第5話 永遠の仲間（前書き）

人って第一印象って難しくないですか？話してみたら結構良かったり、そうでなかったり。そんな4人の出会いをテーマにした作品です。良かったら読んで下さい。

第5話 永遠の仲間

今から3年前、俺は永遠の友と出会った…。

『今日からこの学校に転校してきた真田祐也君まなだゆうじです。』

『よろしくねん。』

正直、最初の印象は最悪だった…。

チャラチャラしてて髪の毛は金髪。クラスの奴らに目をつけられていた…。

案の定、初日から喧嘩だった。

俺は、不良でもなく頭が良い訳でもなく、何処にでもいそうな夕
イプだった。

『楓！帰ろっ。』

『うん。』

綾音は言つまでもない…。

教室を出ようとした時、ちょうど転校生、真田が入ってきた…。
怪我してた。

『ちょっと待ってて？』

『うん。どしたの？』

俺が話しかけようと思った時……

『大丈夫？すごい怪我だよ？保健室いこ…。』

話かけたのは山倉優希（まぐら）だった。

『優ちゃんだあ！優ちゃん？一緒に帰ろ。』

綾音と優希も仲が良くいつも一緒にいた。

優希が優しくハンカチで血を拭こうとした時…

『止めるよ！』

優希の手をはらった。

『あつ！ごめんね…。』

それを見ていた俺はすごい勢いで…

『お前、ふざけんなよ！ハンカチ拾え！優希に謝れ！』

頭にきていた。

これが俺達4人が初めて揃った、最悪な日だった。

『なに、熱くなってるんだよ…。』

祐也は、教室を出ていった。

『あつ！保健室連れてかないと……。待ってよ。。あやちゃんごめんね？先に帰ってて？』

優希も祐也の後をついていった。

あんな奴、ほっときゃいいのに……。

『優ちゃんってホントに優しいんだよね。だから綾音、優ちゃん好きなんだよなあ……。』

『少し待ってよっか！』

『うん。』

）……）……）……）

『真田君？保健室行くよ！』

『……。』

ぐいつ！優希は祐也の腕を引っ張った。

『いてっ！いてえなあ！離せよ行くから……。』

『！……もしかして、腕も？』

『チョットぶっただけだよ……。』

『チヨツト見せて?』

『止めろって!』

『見せなさい!』

優希の勢いは祐也おも黙らせた…!こえつ。

『痛いアザじゃないよ…。痛そう。』

ぐりい!アザをグリグリしてみた。

『いってえ!何なんだ、お前はあ!』

祐也は、痛々しい顔をした。優希も同じような顔をした…。

『お前じゃないよ!優希だよ。山倉優希!よろしくねえ。』

『なんで男の子って、強い、弱いつてこだわるんだろっね?優希、ケンカ嫌いだもん…。こんな怪我見たくないもん…。』

保健室で、手当てをしてくれた…。ずいぶんなれた手つきだった…。

『ほ、包帯巻きすぎ…。あははっ!ありがとな…。優希って優しいんだな。』

『ん〜。何でだろっね。』

名前が優希だからかなあ?優しさに希望の希!お母さんが人に優し
くなれるようになってつけてくれたんだって。『ニコツ!』

『……さつきはホントにごめんな？手、痛かっただろ？』

不安、緊張、色々あって優希に当たってしまった自分自身に頭き
た…。

『いいよ。にっ！なんか、気持ちわかつちやっただなあ…。』

俺と同じで色々あったんだなあ…。ホントにいい子だな。

『さつき、教室いたの友達か？』

『そうだよお！優希の友達だよ』

『あのめっちゃキレそうだった奴、もしかして彼氏？』

『ち、違うよ！楓君！もう1人の女の子が綾音ちゃん！優希はあや
ちゃんって呼んでるけどねん。』にっ！

『良い友達もったな？もし会ったら謝つといてよ！ごめんなって…。
』

『いいけどお…。祐也君…！あっ！祐也君ってイツちやっただあ。』

『いいよ。優希ならね。』

『えへへっ…。ありがと。でも、祐也君、自分で言えば？そこにい
るから…。』にっ！

『えっ！マジで…。』

なんか微妙だなあ…。

『よっ！一部始終聞かせて貰いました。楓っす！何てね、さつき、来たらなんか入りにくい感じだったから……。にっ！大丈夫？怪我。』

『私、加藤綾音です。ニコッ！優希と友達しています。』

『あ、あのさあ……。さつき、すまなかった！友達やられればムカつきもするよなあ？ごめん……。』

『いいじゃん！楽しくやろうよ！真田君……。祐也！』

祐也つて案外いい奴かもな！優希も人見る目あるな！

『んじゃさあ！帰ろっか。腹減ったしね！』

『綾音も空いたあ。』

『優希もお。そうだあ！祐也君、これからゆうちゃんって呼ぶ事にしたからあ！』

『へえ？なんか女みたいじゃん？』

『いいのお！優希が決めたんだからあ。』にっ！

『はっい……。』

女みてえだなあ……。。

夕陽は太陽

『ゆうちゃん……』

第5話 永遠の仲間 完

第5話 永遠の仲間（後書き）

読んで頂きまして有難う御座いました。新しい優希の性格が祐也を仲間に……。色々ありました良かったねって言う気持ちです。第5話、少し長くなりますが、次回、続編も宜しく願います。有難う御座いました。

続編 向日葵の笑顔（前書き）

最近、恋愛からコメディ化してる事に気が付きました…。それも漫画みたいなの…。小説じゃないじゃん！って感じですね。すみません。でも、楽しく書いてます。良かったら読んで下さい。宜しくお願いします。

続編 向日葵の笑顔

『おはよ！優希です。今あやちゃんと教室でお話してるもなか……ちやうちやう、最中です。』

『どっちが先に来るか……。2人共、遅刻ばっかなんですよ……。』

キーンコー……！

『やああ！おはよお 楓来てる？』

はい！ゆうちゃんの勝ちい。にっ！

『ゆうちゃん！はよお。』

『楓、遅刻みてえだなあ！ああ、疲れたあ。』

ガラガラっ！

楓？

『おはよう！廊下は走るなよ？真田！』

『あ、はい！すみません……。ははっ。』

『起立、礼……。』

『やつ……あれえ？おはよ……う……。』

あちやあああ…

『楓っ！立ってなさい！』

『はい…。見んなよ』べえ！

今日は、楓君の負けえ！につ。朝から面白いね。

『なあなあ、優希？』

『ん？おはよ。』

『俺、速いつしょ！今日勝ったなって感じるもんよ！』

『速いも遅いも勝ったも負けたも遅刻しないように早く起きなきゃダメだよ？あやちゃんも優希も待ってるんだからあ……。ねえ、あやちゃん。』

『ホント、バカなんよ！楓はあ。もう……。』

くっくっくっ…。おもしれえなあ！こいつらって…。

『……これからは、もっと早く来なさい！わかりましたか？』

『はい！』

朝から説教だよ…。

『バシッ！かあえでえ！こらあああ！また、遅刻してえ！もう怒ったからねえ！』

『（いつてえ！）ゴメン！悪かったよ…。』

いつもこうだよ…。

『優希？加藤ってこええなあ…！』

カバンで殴ってるし…。

『あやちゃん、ホントは優しいよ？楓君にはめっちゃ厳しいけども…。にっ。』

『あ！そうだあ。もう怪我治ったかなあ？見して見して。』

『ん。』

『わあ！治り早いねえ。』

『薬とか別にいんねえよ！』

『むっ。ダメって言ったらダメええ！』

おっとお！優希も優しい癖にいざって時はこええ…。

俺達っていつたい…。情けねえ。

『優希？楓と加藤って付き合ってたのか？すげえ仲いいじゃん？』

『優希もわからなあい……。でも、多分2人共好きだよねえ。楓君もあやちゃんも優希と会う前からあんなだもん。クスッ。』

『みんな、仲いいよなあ……。俺もおまえらといて楽しいしなあ。』

『そうだあ！ゆうちゃん、今度、4人で海行こうよ。につ！』

優希の笑顔可愛いよなあ……。ん？

『俺、行っているのか？』

『なんでえ？ゆうちゃんいなきや優希、つまないじゃあん？なんかデートみたいだねえ……。』

このノリって……。優希って、天然？

『なあ！優希って……。天然？』ビシッ！

即ビンタ……！

『天然じゃないもん……。ゆうちゃんのバアカ！あやちゃんとこ行くつ……。』

えっ………？

『祐也？……祐也！』

『んあ？楓かあ……。』

シヨックで記憶飛んだぞ…。

『今、優希に天然っ…』

ビシッ！

『いてえなあ！俺なんもしてねえだろお？』

『優希、天然じゃないもん…。あやちゃん、あっち行こー！』

『あはは…。ご愁傷様でしたあ…。じゃあ…。』

綾音も苦笑いでその場を去った…。

小声で…

『優希は、天然って言われるのすげえ嫌がるんだよ…。なんかいつもより痛かったああ…。』

『でも、ゆうちゃんって、言ってるうちは大丈夫でしょ。』

『女は難しいなあ！なっ！楓っ。後で謝っところ…。』

『さっきさあ、海行こうって誘われたけど、いいのか？俺行っ…。』

『なんで？いいにきまっちよろうがあよ？』

『はい？ちゃんと喋れよ…。いいんだ。ありがと。』

ん？優希に誘われたのか？だとすると案外……。につ！

『んじゃさあ、優希の機嫌治ったら話そつぜ？予定とか。』

『なんか、今からテンション高っ！』

・
・
・

結局、放課後…

『帰ろお。楓っ！』

『うん…。あれ？祐也と優希は？』

2人共、姿が見えなかった…。

『仲直りできたんかなあ？』

『優ちゃん、怒ると長いもんねえ…。』

『そういえば、優希に海誘われたって言ってたぞ！』

『え？誰っ？』

綾音も、目が点に……。今の顔、写真に撮りたかったあ。

『祐也だよ！』

『…そつかあ。良かったねえ。』

嬉しそうだなあ…。

『少し、探すか？』

『うん。』

優希は、積極的っぽく見えるけど実はかなりの奥手。積極的に見えるのは、天然だから、そう、勘違いされる事が多かった…。

でも、優希が祐也を誘ったって事は、楓と綾音からしてみれば、予想外の展開だった。ちよっぴり楽しみありで…。

く…く…く…く…

その頃…

『な？ゴメン。優希！俺が悪かった…。』

優希にひたすら謝っていた…。

『ゆうちゃんが悪いんだよ？優希の事、天然とか言うから優希怒ってるんだよ？』

『知らなかったんだよ…。』

めっちゃ頑固だなあ…。んじゃ逆のパターンで…！

『そつかあ！優希の気持ちわかったよ…。悪かったな！じゃあな！』

ちよつと突き離してみた。

『えっ！やだあ……。じゃあなとか言わないでよ……。グスン。』

やべえ！泣きそうになっちゃった……。でも……可愛いなあ！

『うっそお！優希ってホント可愛いな！』

『ああ！ゆうちゃんそんな事言つてえ……。』

優希の顔にも笑顔が戻った。向日葵のような笑顔が……。

『そう、その笑顔！今度、写真撮らしてよ！』

『ん……。…海行くなって約束してくれるならいいよ？』

優希の上目ずかいは可愛いかった。

『やつ、約束する……。』

『ゆうちゃん？小指だして？』

『ん？』

ゆ〜びき〜りげんまん……

やっぱり、天然かな……。でも、それもありかな。

『あつ！いたあ、優ちゃん！…？指きりしてたの？綾音もやるっ。』

やべえ…。巻き添えくう前に逃げないと…。

気配を消し、徐々に遠くに…殺気！

『楓！一緒にやるっ！』

『…はいはい…まつ、いつかあ！』

ゆびきりげんまん…

恥ずかしかつたけど、それはそれで楽しかった！周りを気にせず弾けるのもたまにはいいかなって…。

こうやって、スムーズに溶け込む俺がいた…！友達とか出来なかった俺に、3人もできた。少し、泣きそうだった。笑いで吹っ飛ばしてやった。ありがとう…

続編 向日葵の笑顔 完

続編 向日葵の笑顔（後書き）

読んで頂きまして有難う御座いました。指きり。懐かしいですね。優希がちよっと子供っぽいのと、おませな祐也！少しずつ引かれあつてる2人！次回、海です。お楽しみに。有難う御座いました。

続編 思い出の一枚(前書き)

今回の作品は、かなり好きです。是非読んで下さい！青春って感じ
です。

夕陽は太陽

続編 思い出の一枚

『おはよ、綾音です。今日は、皆で海に行って来ます。楓は朝から寝坊だし……。でも、真田君と優ちゃんは仲良さそうに話しています。後少して来ると思うのですがあ……。ああ！』

『ごめん……。あ！すみません……。』

綾音の目が……。

）……）……）……）

楓を待っていた時間も有意義に使って電車に乗り込んだ。

『楽しみだねえ！』

優希は、心が現れるような笑顔だった。

『めっちゃ楽しもうなあ！』

優希の隣でやっぱ楽しそうな表情で話している祐也。

『電車っていいね。景色もキレイだしね。』

綾音も笑顔だなあ……。

何で、俺、荷物係り……。まあ、しょうがないかあ……。誰か優しくさを……。

夕陽は太陽

『楓っ！一緒に話そつ。ねっ。』

窓に映る景色と綾音の笑顔。幸せです。

『うわぁ！海い！ゆうちゃん海、海！』

『うわっ！優希！あんま窓から顔出すなっ！』

かなり興奮してるようで…。押さえてるのがやっとなっす。

『優希っ！楽しそうだなあ！こんなはじけてる優希見んの久々だな！』

『そうだね…。』

見ているだけで微笑ましい気持ちになれました。

）．．．）．．．）

なにはともあれ無事、到着しました。

『やあっと着いたあ…。ねっ！泳ごー！』

優希のテンションMaxです…。

『よっしゃあ！優希！行くぜえ。』

洋服を着たまま海に入る2人。キラキラしてて、やっぱり気持ちが良いです。

『あのお…荷物。』

早く片付けして遊びたいよお…。

『パラソルさしてえシート敷いてえ…荷物ココ置いといていいよ？
楓も入りたいでしょ？綾音見てるから遊んできな？』

綾音は、シートにちよこんと座りながら笑顔で…。

『…いいの？綾音は？入らないの？』

洋服を脱ぎながら聞いてみた…。

『日焼けしちゃうし、見てる方が面白いから…。後で少し入るけど
ね。』

この時、ああ、やっぱり女の子なんだ！って楓は思った。にっ！

『んじゃ、先行ってる！すぐ、戻るからあ。』

綾音は、優しく手を振った…。少し見とれてしまった…。

祐也と優希を探す楓。

祐也と優希に水をかけられる楓。

溺れる楓…。

祐也に浣腸している楓……。

それを、見て笑ってる優希。

優希の事、笑わせる為に、色々な手を使って一生懸命やってる人。

何を、間違えたのか、優希に浣腸してしまった祐也。

グウで優希に殴られてる祐也。

それを見て驚いてる楓。

……やっぱり私もみんなと遊ぼっ！

『カメラ、カメラ！いっぱい写真撮ろうよ！ね？』

走って来た綾音は、水着姿だった。

楓も祐也も優希でさえも、キレイな体に見とれてしまった…。

『ん？……！なにめっちゃ見てんのよお……。楓！？』

『ああ……。ごめん……。』

正直、ドキドキしていた…。それは、祐也も同じだった。

『あやちゃん、キレイな肌してるねえ。触りたくなっちゃったあ！』

『やだあ……。くずぐつたいよお……。もう……。ダメっ……。』

楓？海から出れなくなった…。

そうだなあ…。

お弁当を、食べる楓と綾音。

ビールを！ビール？（お酒は二十歳から！）飲む祐也。

優希とパラソルの中で仲良く寝てる祐也。

優希の寝顔。

楓と祐也の２ショット。

綾音と優希の２ショット。

綾音と一緒に歩いている楓。

綾音が楓の前で仁王立ち！

そして、殴られてる楓。

綾音と楓のスマイルショット。

最後に、優希と祐也のラブショット。

ガタンゴトン

ガタンゴトン

『今日は、楽しかったなあ！祐也も優希も寝ちゃってるよ！』

隣の席で、祐也に寄っ掛かりながら寝てる優希。カシヤ！

『楓？写真撮る？』

『いいよ。』

海の夕陽をバックにした楓と綾音のラブショット。

『写真、楽しみだねえ。一生の思い出！楓との思い出…。』

『えっ？なっ！何て？』

楓も眠かったせいか聞き損じた…。

『内緒！楓も少し休んだら？時間あるし…。ねっ！』

楓の寝顔。カシヤ

楓に寄り添って寝てる綾音。カシヤ……。

思い出いっぱい。アルバムに…。心の中に…。入りきらないほどいっぱい。

夕陽は太陽

後で、写真を見た時は、多分…絶対、驚くでしょう！でも、思い

夕陽は太陽

出っついていいよね……。永遠に残る物だから……

続編 思い出の一枚 完

続編 思い出の一枚（後書き）

読んで頂きまして有難う御座いました。若さ故に……って感じですよ。私も昔、写真とかやった時期がありました！面白かったです。また、やろう！写真は永遠に……ですね。有難う御座いました。

続編 花火だワツシヨイ（前書き）

花火や祭は、良く思い出話に花咲きますよね。この作品は、そういった話！皆さんが経験してるような作品に仕上がりました。共感してもらえたら幸いです。

夕陽は太陽

続編 花火だワツシヨイ

今、思えば色々な事があった…。

海も良かったけど1番は、やっぱり花火かなあ？

・
・
・

『今日の夜、絶対来てよ？ゆうちゃん？優希、浴衣着るからね？』

『そうか！んじゃ俺も甚平着るかなあ…。』

俺は、あまり混雑してる所は好きじゃなかった…。でも、優希のワガママは全部受け止める！あははっ。好きになっちゃった…。

『楓とか加藤は？』

『夜、河原に集まるって話しておいたよ！にっ。』

まっ！いつかあ…。少し2人で話したかったってのもあったが…。あいつらも好きだから…なっ。

・
・
・

夜になり…

『あつ！来た、来たあ！あやちゃんこつちい！』

楓と綾音が歩いてきた。

『ごめん……。綾音がすげえ遅くてさあ……。』

『楓も遅れて来たでしょ！』

楓は、デニムのパンツにTシャツで、ネックレスにピアス。

加藤は、浴衣に髪の毛アップ。キレイだなあ！

優希も、浴衣、可愛いなあ……。

俺、も着物にすりや良かったかなあ……。まつ、いつかあ。

『花火、始まる前に屋台行こうよ！』

そう、花火と言えば屋台！こちら辺では、かなりおつきい祭で屋台もいっぱいあったのです。

『ゆうちゃん、ゆうちゃん！金魚っ！とつてえ！』

『任せとけっ！おっちゃん、一回！』

『楓っ！負けるなあ？』

『おう！祐也に負けたら俺の人生終わったも同然だよ！』

互いに火花が散った……。

結果、3対0で祐也の勝ち！

『やったあ！楓、下手なんだよ……。』

優希と言んでる祐也……。まつ、いいかあ。

『あ！綾…音…がぁ……。ごめん。』

『いいよ。優ちゃんと真田君があんな喜んでたら何も言えないもん。ニコッ。』

『楓っ！たこ焼き対決だっ！早く食った方が勝ちな！』

すげえ熱そうじゃん……。

『こ、今度は負けねえぞっ……。』

結果、楓、大やけど……。

『もう、いいから……。』

負けっぱなしの楓に、綾音怒りぎみに……。

『あやちゃん？チヨコバナナ食べ行こ？』

『ちよ〜つと待った！バナナは俺が、ジャンケンで勝てばもう1本。もう負けられない。おっちゃん勝負！』

『お兄ちゃん、気合い入ってるねえ！彼女にプレゼントかい？』

『か、彼女？』

後ろを振り返って見た…。祐也も優希も綾音の事を見ていた。綾音は顔を真っ赤にして俯いていた…。照れた。

『…そ、そうだあ！だから負けられない！おっちゃんには、負けられない…。』

何だか周りに野次馬が集まって来た…。

『そっか！お兄ちゃんいい根性してるな。んじゃ、ジャンケン……。』

『やったあ！勝った！』

『お兄ちゃんの気合いに負けたよ！その2人も友達だろ？4本プレーゼントだ！』

『ありがとう！おっちゃん』

『大事にしるよ？彼女！また、来いよ。』

やった！勝ったしみんなの分まで貰ったし…。

『はい！バナナ。』

『何か、凄かったなあ！楓！カツコ良かった！マジで。』

『優希、驚いちゃったあ！彼女！だってえ、ねっ？あやちゃん？』

綾音も、顔を真っ赤にしてバナナを受け取った…。

『ありがとう……。』

『は！あ、ああ！花火そろそろかなあ？行くぞ、祐也』

綾音に見とれていた。でも…ちょっと嬉しかった。周りからそう思われてる事が…。

バン！バババン！たあまやあ〜！

花火が始まった。

夜空に咲く花が、綾音を照らす…。赤、黄、白…。何の色で見ても綾音は可愛い！花火より綾音の事を見ていた…。自然と見ていた。

『あれ？祐也達は？』

周りを見ても見あたらなかった。

『あやちゃん！こつちい…。今行くうう！』

かなりの混雑…。

『あのね？今ね？ゆうちゃんに告白されたの！にっ！』

『な！……。』

祐也も、優希の性格になれたのか、動揺はしたものの…。

『優ちゃん。良かったねえ！おめでとお！』

『ありがとお……。にっ。』

少し、照れながらも手を繋いでいた。

『い、いつ？告ったの？』

すげえ興味信心だった！

『いいだろ！まあ、気にすんなよ！俺達付き合っても、男の友情はかわらんから！』

くそっ！俺も、言っちゃおうと思ってたのに……。また、タイミン
グが……。

『2人も付き合っちゃえば？』

！！！！

楓と綾音が一瞬！目が合ってしまった。その後は、きまらずそうに
……。。

優希の一言できまらずい雰囲気をつくってしまったが……。

楓の、バナナ事件！祐也の告白！花火！また、良い思い出出来ま
した。結果はどうあれ……

夕陽は太陽

続編
花火だワッ
ショイ

完

続編 花火だワツシヨイ（後書き）

読んで頂きました。有難う御座いました。色々あって、やっぱり昔を思い出しました。優希、相変わらずやっちゃんいましたね…。まだまだ書きますので宜しくお願いします。

続編 優希（前書き）

出来れば書きたくなかった作品です。色々ありますが、よかったら読んで下さい

夕陽は太陽

続編 優希

『おはよ！楓っす。花火の日は、大変だった。疲れました。でも、祐也と優希が付き合う事になって…良いんだか、悪いんだか。ちえっ。』

最近、真面目に学校に来てる楓。何故なら、綾音が毎朝、迎えに来るからです。

お陰様で、遅刻は減り、清々しい登校が出来る…との事！
本当の理由は…

『おはよ！はははっ！今日も、気持ちいいな！』

『ゆうちゃん！はよあ。気持ちいいねえ！につ！』

2人のアツアツぶりに少しまいってる綾音でした…。

『ふうん。それで、俺も巻き添えかあ？』

『そんないい方しなくてもいいじゃん…。楓いたら面白いし？一緒ににい……。』コホンっ…！

『ん？大丈夫か？一緒に…なんだ？』

『な、何でもないよ？』

と、言う関係のままです。

・
・
・

『やっぱ、優希って可愛いなあ！ギョッてしちゃうよ？』

『あはは。やだあよお！』

…ああ…。綾音の気持ちも納得できるかなあ…。

でしょ？……。

『そういえば、今日、午後から台風とか何とか言ってたねえ！二ユースでみたあ！』

最近、気圧の変化とかで、強風、豪雨注意報の出やすい地域だったのです。

『やだなあ…。学校休んじゃう？』

『だあめ！綾音が寂しくなるう…。』

『あ！降ってきたあ…。すげえ強い…。』

滝のように降る雨…。こうゆう雨は、大体、すぐ小降りになるのですが…。

『勢いおさまんねえなあ…。！案外ヤバいぞっ！今日は…！』

なんか妙な胸騒ぎがした…。

『綾音？今日は、なんかヤバいぞっ？』

『雲行きが怪しいね…。』

・
・
・

『祐也？わりい今日先帰るよ！じゃな。』

祐也、優希の家と方向がちよっと違う俺んちと綾音！

いつもは、祐也の道で大回りして帰っていた…。

『お、おう。また、明日な！』

教室をでて…、げた箱で…。

『あれ？俺、傘……忘れた？……。走って帰るかな？』

『え！危ないよ……。綾音の傘……、入っていいよ……。』

ドキッとした、相合い傘だあ！

『……。す、すげえ雨だなあ……。』

『そうだね……。』

祐也達も、後から追いかけてきた。

『はああ……。やっと追いついた……。』

『ゆうちゃあん。

待ってよお！』

トボトボとゆっくり近づくと優希。

『楓？最近なんかわりいな……。今度、家遊び行くから……。じゃあな……。』

楓と、綾音に軽く挨拶して違う方向に歩いて行った。

『あやちゃん、また明日ねえ。バイチャ！』

『あ！帰り気い付けてなあ！』

背中越しに手を振った祐也。

優希も、こっちを向いて胸元で手を振った……。

大丈夫かなあ……

この後、元気な優希の姿を見る事は……なかった。

夕陽は太陽

その夜…

『楓っ？綾音ちゃんから電話よっ。』

ん？こんな大雨で怖い、来て？とか言わねえだろうなあ…。

『もしもし？どしたあ？』

『楓？あのね？……』

楓は、すぐに異変に気づいた！

『綾音！今行く。』

電話を切り、カッパを着、そのまま走った！

綾音…

くそっ…

『はあ、はあ……』

ピンポーン…

ガチャ！

『楓っ……。』

綾音は泣いていた…。

『どうした？落ち着け…。』

優しく話した…

『ゆっ、グスツ。優ちゃんが…、事故で…うわああっ！』

マジ、マジかよ！俺自身も、頭おかしくなりそうだった…。ダメだ！落ち着け！俺がシツカリしなくちゃ…

優希が？祐也はどうしてるのか…

落ち着け！

『祐也は？誰から電話あったの？綾音？』優しく…

『真田君…か…ヒック…ら…。グスツ。』

祐也だな！

『綾音？大丈夫か？ん？』

強く抱き締めた…

雨はさらに、狂ったように強くふり俺の事を先に行かせまいと
てるようにも見えた…。

雨で、濡れてしまった綾音を、親に預け、祐也だ！

『楓っ！綾音も行く……。』

『……とりあえず暖かい格好して待ってる！後で迎えにくる……。』

・
・
・

祐也の家は……あった！

『はあ！はあ……、さすがにしんどい……。』

ピンポーン

『はい！』

『祐也君、いますか？』

『もしかして、三神 楓君？』

『はい！祐也君は？ちよ……。』

『なんか病院向かったわよ？来たら渡してくれって……。』

『……？』

『…………。わかりました！有難う御座いました。』

一度家に戻り、着替えて……。親に頼んで車を出してもらった。途中、綾音も乗せて、病院へ……

『ここで、待ってるから……。気にしないでいいからな？お父さんの事は……。』

お父さん、有難うと、心で。

『綾音！行くぞ。』

『うん……。』

病院の中は、夜だけあって静かだった……。受付で聞いて歩いて向かった……。

家族がいた……。少し離れた所に祐也が……。

『祐也！おい！……。優希は？』

何も言わず指をさした……。

『いやああ……。』

お通夜、葬儀、火葬を終えて……。

祐也は、来なかった……。

さつきまで元気だった人が動かなくなる……。まだ、夢を見ている感じだった…

『綾音？大丈夫？』

『うん……。』

祐也は、少しの間、学校にも来なかった。

…会いに行くかあ。

ピンポーン

『……。』

ガチャ！祐也だった。頭もボサボサでかなりきてるな…。

『大丈夫か？学校もこないから心配だよ！』

『……。』

『学校はいいとしてちゃんと会いに行つてやったか？』

『……。』

なんの反応もしない祐也に、頭に来た。

『何とか言えよ！そんな事、してたって優希は、喜ばねえぞっ！』

ゆっくり、楓に近づいて来た…。

両肩に手をやり…

『楓っ？俺、どうしたらいい？台風の日だって、あぶねえから送ろうとしたんだよ？でも、優希の奴、自分の事より俺の事心配してんだよ…。』

祐也は、俺の目の前で崩れ落ちた…。

『ホント優しくくて、可愛いくて、好きだった…。』グスツ！

『ちくしょお……！』

くそっ！俺自身も後悔していた…。あの時、一緒にいれば…注意してれば…こんな…事に……は……。

『祐也？…一緒に、送ってやろうよ？ねっ』

祐也が顔を上げた…。

楓が泣いていた…。

俺だけが辛い訳じゃない。楓も加藤もみんな、辛いんだ…。

くそっ！涙がこぼれた……。

く
く
く
く
く

『おはよ！昨日は祐也とビール飲み過ぎたかなあ？』

優希の事、語りながら結構飲んだなあ。

『祐也？起きろよ！お墓行くんだろ？』

『ふあああ！おはよ！行くんだろ？』

ああ！今日は、良い天気だ！優希も喜ぶだろうな！

『加藤は大丈夫なのか？』

『。。。もう、あんな辛そうな綾音見たくないから。。。』

『はあく！着いたあ！』

『あれ？誰がいる。。。』

。。。！綾音！

『遅いぞっ！優希とずっと話してたよ。。。相変わらず楓も真田君も女を待たせるんだねえ。。。につ！』

『なんかさあ！優希の夢見たんだよ！』

『俺も。。。』

『綾音も。。。』

夕陽は太陽

ずっと忘れないよ。優ちゃんは綾音の友達だよ！

だから、安心して見守っててね！

あやちゃん、ゆうちゃん、楓君、ありがとう！バイチャ...

続編 優希 完

続編 優希（後書き）

読んで頂きまして有難う御座いました。書いてる途中、優希と言
うキャラクターを終わらせたくなかつたんですけど…。お墓を出し
ちやいまして…。辛いです。また、楓と綾音の駆け引きありますか
ら！今度は、バンバン行きますよ

第6話 綾音の笑顔が見たくて…（前書き）

人の思っている事って、口で言わなきゃやっぱりわからないですよね？そこから、誤解を受ける事は多々あります。純粹だから故に招いてしまった…。そんな作品です。よかったら読んでみてください

第6話 綾音の笑顔が見たくて…

『おはよ！楓です。今、電車に乗ってます。』

電車に揺られて、コックリ…。あ…。気持ち良くて眠くなっちゃった…。10分位で着くのですが…。

家の近くに店がないため、電車で街に…。田舎っす。

何で街に向かっているって？それはバイトを始めたから…。

最近、思うんですよ…。綾音から、チョコ貰ったり、プレゼント貰ったり…。でも、お返しした事…ない…。そんな事ありませんか？あなたも？あなたも…！

だから、バイトして、なんか買ってプレゼントしようかなって…。思ってます。綾音には、内緒っす。

『楓っ！かあえろおっ！』

綾音が小走りだよってきた。

『あ！ごめん…。今日さあ、ちょっと行かなきゃいけない所あって…。ごめんね？』

楓は、走って帰ってしまった…。

…最近、なんか冷たいなあ…。
ずうっと、1人で帰ってるようなあ…。寂しいよあ…。

なんか誤解してなきやいいな！

少し、不安な気持ちではあったが、綾音の喜ぶ顔が見たくて……。

学校が終わってはバイト。休みになればバイト。毎日、せつせと汗、水流して頑張ってます。

その頃、綾音は……。

楓、誰か好きな子でもできたんかなあ……。いやいや、綾音は楓を信じてます……。はあ……。逢いたい……。

次の日……

『おはよお……。』

あつ！楓だ……。なんか、元気ないなあ……。

綾音は、そつと楓の隣に座った。

『おはよ。どうしたの？元気ないねえ……。』

『んな事ないよ！ほらね？』

無理して……。心配……。

……！そうだつ、真田君、何か知ってるかなあ……。

『真田君？』

『んあ？加藤じゃん。なにい？また、なんかあったん？どうせ楓の

事だろ？』

う……。やっぱり読まれてる……。

『うん……。楓、最近冷たいって言うか避けられてる感じする……。真田君は、何か聞いてるかなって……。今日なんか疲れてるみたい……。』

祐也も少し考えていた。

『確かに、最近あいつ、変って言うか……付き合いわりいよなあ！よしや、俺に任せとけ！なっ！』

さすが真田君！お願いします。

『楓っ！どした？疲れてんじゃん？顔。いい男が台無しだなあ！ぶううっ。』

俺のが、カッコいいと思いながらも……。ナルの祐也。

『ああ？祐也か……。眠いから邪魔するな……。くう〜……。』

寝やがった……。ダメだな……。

楓はかなりの疲労でピクリともしなかった。

加藤が心配するのも無理ないか……。

『加藤？今は、休ませてやれよ！な？』

あ〜ん……。どうしょお……。
右え左えあたふたする綾音……。

何やってんだか……。呆れる祐也……。

放課後。

毎日、毎日……楓、もう綾音とは……。
1人で帰ろつ……。背中が寂しそうな綾音……。

『楓！お前、何やってんだよ！加藤、すげえ泣きそうだったぞ！』

『え？何でだよ……。祐也なんかしたのか？』

プチっ！祐也のキレる音が……

『バカかお前は、楓、ずっと加藤の事、ほったらかしじゃねえか！
何やってんだよ！早く追いかける！』

あ！そうか……。最近、ずっと一緒に帰ってねえな！そこまで悲し
ませて……。やべえ……。

楓は猛ダツシユで追いかけた……。

『綾音！』

『ん？』

楓だあ。今日も、どっか行くのかなあ……。

『綾音？最近、一緒に帰ってやれなくてごめん？』

『いいよ。。。』

忙しいんでしょう？

『実は…これ…。』

カバンの中をゴソゴソいじっていた。

『ん？』

何してるの？探し物？

『いや…綾音にいつも色々貰ってばっかだったから…。バイトして…。…。…。プレゼント…。ただ、喜んだ顔見たくて…。内緒にした。ごめん。』

！……！

綾音は、喜びのあまり声も出なかった…。

『さっき、祐也が追いかけて…、綾音、泣きそ…？』

『ありがとう…。』

目いっぱい涙を浮かべ…。嬉しかった。

『そんなに、不安にさせてるとは…。ごめんね？』

いつものベンチで…

『開けていい？』

『うん。』

『うわあ！可愛い。ネックレス…！高かったでしょ？』

『そ、そんな事ないよ……。』

『1ヶ月のバイト代でした…。でも、綾音の笑顔に比べたら…。ねっ！』

『か、え、で！つけてえ？』ニッコニコ！

綾音は、後ろを向き、髪を束ね、アップぎみに持った。

『う、うん……。』

楓は、後ろからネックレスをつけた。綾音は、そのまま楓に寄りかかるように寄り添った…。

『ありがとう……。』

幸せです。ありがとう。楓、だあい好き！

ちえっ！心配する事なかったじゃねえかあ！

夕陽をバツクにいい感じの写真見てえな事しやがって…。

よかったね…。

第6話 綾音の笑顔が見たくて…（後書き）

読んで頂きまして有難う御座います。楓の純粹な思いから不安にさせる…。でも、よかったね。祐也の影の助けもあり…。次回も頑張っ
て書いて行きたいと思います。有難う御座いました。

第7話 2人の距離 楓編（前書き）

楓と綾音。バイトを始めてから2人にちよつとしたズレが……。今回は、楓と綾音。別々に展開。よかつたら読んでみて下さい。

第7話 2人の距離 楓編

今日も、天気いいなあ。あ！横須賀見えるう！釣り船が並んで
…。磯の香り。あ！綾音です。今、海沿いをバスで走ってます。そ
う、帰宅中です。

ん？楓？んゝ…。バイト始めてからなんか楽しくて…。地元で新
しいバイト始めたって…。また、1人…。

綾音も、バイトしよかなあ？携帯欲しい…。まだ、持ってま
せん。持ってなくなつて生きて行けるもん！

実は、夕方からコンビニでバイト始めちゃった。につ！

楓は、週5で祐也がバイトしているサーフショップのバイトをし
ていて、また、綾音をほつたらかし…。

綾音も、つまらないからって…携帯の為、バイトを始めた。

そんなこんなで、2人の隙間が少し開いた時だった…

・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・
『いらつしやーい。』

楓つす。今、祐也とショップで店番です。最近、暖かくなってき
たせいかわからないが、結構忙しいです。

『なっ？結構可愛いのいるっしょ？』

祐也なあ……。まつ、まあなあ……。にっ。

『すみませえん!』

ほらきたあ!見てろ?楓っ!

何やってんだか……。……あ!可愛い。

こんなんで楽しんでるの祐也だけだろ……。

『あのお……。』

『はい。』

俺、まだ、何もわからないんだけどなあ……。

『スママセン……。俺、入ったばかりでよくわからないんですけどお……。』

ヤバいかなあ……。

『ウソお!新人君?今、いくつなの?』

えっ?どうしよお……。

『16です……。』

年聞かれてもなあ……。

『ええ?ウソお!何か可愛い!私、このショップ行き着けでえ……。
今度、一緒に海入らない?』

『海入るって言われてもお…、俺、サーフィンやった事ないっす…。』

どうすんだよお…。祐也 help me

『そっかあ…。んじゃ始めよ！名前教えて？私、明菜。渡辺明菜』

わたなへあきな

『俺、な、楓っす。三神 楓です。』

思わず名前言ってしまった…。

『顔も可愛いけど名前も可愛い。楓君。』

可愛いって…今まで言われた事ないよ…。でも、この…、明菜さんかあ、結構キレイだなあ…。

『あ！スミマセン。大丈夫ですか？楓？何かやったのか？』

『祐也君じゃん！やつほお！』

祐也は、この店で結構な顔だった。

『明菜さんだったのかあ！こんちわっ！』

『楓君？ちょっとシャツどれ可愛いかなあ？私が似合いそうなのある？』

楓っ！後ろから祐也がつついてきた…。

『ん…。俺は、これが好きですね…。』

こんなの、綾音に着せたいなあ…。何てね。思わず笑顔。

『わあ！センスいいね！楓君が選んでくれたから買うよ！』

明菜さん！笑顔ステキだなあ…。

『ありがとうございます！ニコッ。』

『んじゃ、今度、海ねっ！またね。ニコッ。』

明菜さんは、友達と一緒に店を離れた。

『何だよ、楓！明菜さんともう仲良しかよお！』

『そんなんじゃ…。』

『祐也？』

『なんだ？いらっしやい！につ。』

『なんか、海、誘われちゃったよ…。』

『！マジでえ！』

顔が真顔だった。この店のスタッフにもかなりの人気の明菜さん！かなり仲良くなしないと海行ってくれない、相当堅い人だった。

『俺でさえ、まだ、誘われてねえぞ！くそおっ…。』

楓って、実は女にもてる？確かに、服のセンスいいし、ヘアースタイルいつも決まってるし、何で、今まで気付かなかったんだ…。

『俺さあ、サーフィン出来ねえし…。また、誘われたら祐也一緒に来てくれな？断ったら店、大変でしょ？』

内心、困ってた…。

『もち、俺、行きます！』

後で、聞いたのだが、明菜さんってアパレル関係の仕事していてモデルの友達とかもいるらしい。そんな人と仲良くしてもいいのか？俺が…。

休みになるたびに明菜さんは、店に顔を出していた。常連さんだった。時に、モデルさんみたいな人を連れて…。来るたびに誘われた。

俺の中で、“子供扱いして楽しんでるだけだろう”と思っていた。

店が終わって…

『マスター？これ、ウツドのプレス、安く譲ってくれませんか？』

綾音に、似合うかなあ？何て思いながら顔がゆるんだ。にっ。

『いいよ！楓、頑張ってるから。』

やったあ！綾音、喜んでくれるかなあ

『明菜と海入ってやれよ！結構、本気っぽいぞ？』

え！

『またあ。冗談はやめて下さいよ！ははっ。』

『冗談じゃないぞお！この前、頼まれたんだ。なかなか一緒に行ってくれないって…。わかんねえけど、いつもとちがったなあ？』

……。

『俺、まだ学生っすよ？』

『年なんか関係ないっしょ？好きになっちゃったら…。』

この店で働くようになってから、色んなお客さんに声掛けられたけど…。マジ、困った…。

綾音……。

第7話 2人の距離

楓編 つづく

第7話 2人の距離 楓編（後書き）

読んで頂きまして有難う御座います。綾音の強敵現る！今回は楓編！楓編がおわれれば綾音編をお送りいたします。また、宜しくお願ひいたします。

続編 2人の距離 綾音編（前書き）

今回の作品は、綾音編。楓と綾音、同時刻で流れたお話です。良かったら読んでみて下さい。

夕陽は太陽

続編 2人の距離 綾音編

『いらつしゃいませえ。にっ！』

綾音です。学校終わって、今、コンビニでバイトしてます。

夕方から夜にかけて大変です…。

『ピッ、ピッ、320円になります。にっ。』

ね？ちゃんと出来るでしょ？

でも、5時から9時までだからあ…4時間かあ…。疲れるう。携帯、携帯！頑張るぞっ！

『おはよ！綾音ちゃん、頑張ってるねえ。今日も、宜しくね。』

『こんにちは、こちらこそ、宜しくお願ひします。にっ。』

何で、いつも、“おはよ”何だろあ…。あ！バイトの先輩で、相あい川秀楓かわしゅうかさん。男ですよ？綾音が始めてから色々と教えてくれた先輩です。背が高く、大人っぽい大学生だそうです。

『疲れたでしょ？何か暇つぶくなってきたから少し休んだら？なれるまでは無理しないでいいから。ね。』

…。凄く気を使う人で、大人で、優しくて…楓とは、全然違うタイプ…。楓の方が綾音はいいけどね。なんちゃって…。にっ。

棚に、商品、食べ物、雑誌…。キレイにっ！

綾音は、仕事をする事が初めてだったせいか、口ではブツブツ言いながらも結構、楽しんでやっていた。

『綾音ちゃんは、いつも真面目だね。頑張り屋さんなんだね。ニコッ。』

『そんな事…。でも、楽しいです。につ！』

『笑顔、可愛いし見てて気持ちいいよ。』

可愛いって言われちゃったあ。楓なんか“可愛い”なんて言ってくれないしい…。

『綾音ちゃんは、彼氏とかいるの？』

『え？いないですよ…。綾音は、全然もてないんですよ…。』
はあ…。

『そうなんだ。もつたいないな、こんなに可愛いのに…。周りの男は、見る目ないんだな！ニコッ。俺がタメだったら速攻だね。につ。』

相川さん、凄い大人に感じた…。 “可愛い”とか普通に言っちゃうし…。でも…。

『んじゃ、お疲れ様です。お先、失礼します。』

『お疲れ様。ニコッ。またね。』

今まで、楓、祐也と、同じ年の男性としか話した事のない綾音。大人の男性と話すという事はなんだか新鮮な感じだった…。

楓。まだ、バイトかなあ…。

なんか、無性に逢いたくな…た…。声が聞きたくな…た…。

楓…。

続編 2人の距離

綾音編 続

続編 2人の距離 綾音編（後書き）

読んで頂きまして有難う御座います。綾音にもちよっとした出会いが……。お互いが会ってない時の出来事。まだまだ続きますので宜しくお願いします。有難う御座いました。

続編 2人の距離 綾音編（前書き）

最近、バイトが忙しい2人。逢う時間がなくなって初めて気づく事、そして、口で伝えなきや伝わらない事。この作品はそんな内容を書いたものです。よかったら読んでみて下さい。

続編 2人の距離 綾音編

あ。雨……。やだなあ……

そう言えば、最近、楓とゆっくり話してないなあ……。朝、そんな事を考えながら登校した。

『おはよ！梓。』

『あ！綾音、おはよ。』

『あれ？どしたん？悩みありって顔してるよ？』

相変わらず鋭い……。

綾音は、まだ、楓の事を考えていた。

『三神君の事？ケンカした？』

『ケンカとかじゃないんよ……。楓も綾音もバイト始めたじゃん？考えたら、最近あまり話してない気がして……。ちよつと不安って言うか……。』

『恋の悩みですかあ……。私は、三神君の事、あんま知らないけど、綾音は三神君の事わかってるんじゃない？信用出来る出来ないは、綾音が一番わかってるんじゃないかなあ……。今は、バイト始めてなれてないから余裕ないんかもよ？』

ん……。……。

『それより、そんなに好きなのに付き合っていないのが不思議だよ。え。学校？不思議の一つだよ。あははっ。』

楓と綾音は、カップルの事をしていながら、カップルじゃない関係……。不思議な関係なんです。

キーンコーン
カーンコーン

『お！おはよお！はあ、はあ……。疲れたあ。おう、綾音おはよ！祐也！おっす。』

『おっす！楓さあ……。今度……。』

毎朝声はかけてくるけど……。すぐ真田君のところ行ってお店の話はつか……。

バイトなんかやらなきゃよかった……。

楓が休みの時は、綾音がバイト。綾音が休みの時は……。楓は休みの日も行くから……。全然遊べない……。

昔みたいに一緒に帰りたい……。海とか買い物とか行きたい……。

ワガママって言われてもいい。ただ、一緒にいたい……。

楓？ちゃんとつかまえててよ……。じゃないと、綾音の気持ち、どっか行っちゃうよ……。

突然、雨の勢いが強まった…。まるで、楓に対する綾音の気持ちのようだった…。

このまま…すれ違い…か……。

授業が始まり…

コッ！コッ！

ん？何だろ！消しゴム？

後ろから。消しゴムのちぎったヤツを誰かとばしてる？綾音に…。

綾音は、後ろを手鏡で見てみた…。真田君だった。

口パクで、“て”“が”“み”手紙？そして、手でグルグルして…、真田君は眠りについた…。はあ…。

ちゃんと、手紙まわって来ましたあ。クスッ。

く…く…く…く…く…

夕陽は太陽
“どうした？朝から幽霊みたいな顔しやがって、俺は、雨の日は大嫌いなんだよ！これ以上、嫌な思いさせんなよ！雨の勢いが…。変

な事、考えたくないから寝る！何かあったら言えよ！加藤が、暗い時は決まってるからな。わかったな！”

カツコいい祐也様より

PS！（プレステじゃねえ！） タンメン調で… 楓はバカなりい！心が一直線だからよ！

）・）・）・）・）・）

あまり、気にしないようにしよ…。
信じてるよ？楓…。

『ん？どした？綾音…！何で、泣いてんだよ！』小声で…

『何でもない！前見てなさいよ！』

気づいたら涙が…。急いで拭いた。

『なんだよお…。』

『こら！三神！ちゃんと聞いてなさい！』

『はい！』

ほら怒られたあ…。でも、いつもの楓だった…。変わらない楓だったよ…。たつた、一言！今、その一言で楽になりました。考えすぎなのかもしれません。でも、何も言っていないのに…。何で後ろ振り返ったんだろお…。

夕陽は太陽

ちよつと不思議な出来事でした。

続編 2人の距離

綾音編 続

続編 2人の距離 綾音編（後書き）

読んで頂きまして有難う御座います。言わなきゃわからないんですかね？言わなくなっちゃってわかって欲しいとか、たまに、ありますよね？まだまだ、続きありますので、また、宜しく願います。有難う御座いました。

続編 2人の距離 楓編（前書き）

シヨップのバイトを始めた楓。ある時、パーティをやることに…。
楽しいはずの行事が…。よかつたら読んでみて下さい。

続編 2人の距離 楓編

毎年、ゴールデンウィークに、店でパーティをするという行事があつて、働いてる俺、祐也は手伝いをする事になつた。

いっぱいウッドチェア、テーブル。外にも…。なんか、南国を思わせる雰囲気だった。日本じゃない気がした。

『楓っ！ポケツとしてないで手伝えよ。』

祐也は、なれた感じにテキパキと動いていた…。

シヨップの営業中に合間をみてスタンバイ！夜には、店は開けたまま、外でパーティ。初めてだったので少し興奮と緊張が心地良く感じた。

このパーティには、綾音も誘っていた。ただ、この後、綾音を悲しませる事になるとは…。

ああ…、いつもの仕事より疲れる…。ちゃんとバイト代でるんかなあ…。

『楓っ！早くしろよ。』

『はいはい！』

がんばるぞっ！

夜になり、パーティが始まった…

常連さんがどんどん集まってきた。正面には、スクリーンにサーフィンの映像。お酒食べ物も置いてある。にぎやかで楽しく明るい雰囲気だ…。

楽しい雰囲気の中、俺と祐也はボーイさんみたいに働かされていた。な、何で…。

『ボーイさん？ちゃんと働いてるかなあ？』

『はい！ちゃんと…！あ、綾音かよ！おどかさなよ…。よく来たね。待ってたよ。にっ。ゆっくりしてってね。』

綾音は、友達を連れて来てくれた。ホントは、会費制だが楓の友達として特別に入る事ができた。

『うん！楓っ？』

『ん？』

『楓君？ちよつと来てよ！』

常連さんに呼ばれる楓…。

『綾音？ごめん…。行ってくる。ちゃんといるよ？チャンスは、きつとくる！』

綾音は、寂しそうな顔をしていた…。楓は、綾音と話していた

い気持ちを殺して仕事に専念した。

綾音、ごめんな…。

『はい！お待たせしました。どうしました？』

明菜さんだった。明菜さんも、友達をいっぱい連れて来てくれた。

『ね？可愛いでしょ？楓君って言うのお！』

『若いねえ！ホント可愛い！』

俺は、明菜さんに凄く気に入られてて良くしてもらっていた。

『いや…。有難う御座います…。お酒ですか？』

『楓君は働かなくていいよ。ここにいてねっ！クスッ。』

少し酔ってるのかいつもより積極的な感じがした…。

『明菜さん？気持ちは嬉しいのですがあ…！』

『いいからいいから。ねえ？い〜て〜よ〜。ねっ？』

ワガママ言い始めちゃった…。どうしょあ…、祐也…help
me…。

『楓君？ごめんね？明菜、かなり酔ってるね。仕事しないといけな
いもんね！明菜は、私達に任せて、頑張ってるね。』

『はい…。んじゃ、すみません。が宜しくお願いします。』

やっと解放された…。

『楓君？』

『はい…！』

振り向いた瞬間…キス…された…。

『やったあ！楓君の唇奪っちゃったあ。』

『やだあ…。楓君、本当にごめんね。』

な、何だ？大人って…、みんな？みんなこうなのか？

誰とでも“キス”出来ちゃうのか？

なんか、不思議な気持ちになった。

つと、我に帰った。あ！綾音！

振り向いたら…、綾音の姿は…。

時間がスローに流れて行くのを感じていた…。

突然、もの凄い不安に駆り立てられた。

綾音…。

俺はいつたい…。今まで何をしていたんだ…。

『祐也、わりい！ちょっと行くわ…。』

『おい！何？どうしたんだよ！』

楓は、マスターにも事情を話して、今日は帰らせてもらっつ事に
した。

かなりヤバいぞつ！今までのケンカとは訳が違う…。

楓は走った！綾音を探した。心あたりを…。家にも…。

いない…。

綾音を言ばせようと思ったパーティ…。後で、渡そつと思つたウ
ツドのブレス。何もかもがめちゃくちゃだ！

すぐにでも、誤解を解きたかつた。

諦めて、家に帰つた。

・ ・ ・

自宅に…

あれ？誰がいる？

玄関の前に、人影が…。

綾音だ！綾音が座っていた。やっと逢って話が出来ると思った瞬間、不安がどんどんつのってきた…。とりあえず謝ろう…。

『綾音、ごめん…！』

楓が、顔を上げた時…

綾音のキス…

綾音は、泣きながら走って帰っていった…。

俺に、不安と言う沈黙を残したまま…

続編 2人の距離

楓編 続

続編 2人の距離 楓編（後書き）

読んで頂きまして有難う御座います。綾音の気持ち、わかります。スキな人が……。でも、酔った勢いは、良くないですよ。お酒は、ほどほどに！また、宜しく願います。

続編 2人の距離 切ない夕陽 1 (前書き)

やっとつかんだチャンス。そこで、また始まる切ない気持ち。よか
ったら読んでみて下さい。

夕陽は太陽

続編 2人の距離 切ない夕陽 1

『おはよう！綾音です。』

今日は、天気も良く、とっても気持ちの良い小春日和です。はあ……。やっと、あの日がきた……

数日前…、楓から招待状をもらった。

『綾音さあ、ゴールデンウィーク空いてる？』

最近、ゆっくり話してる時間がなかった頃、楓が招待状を持ってきた。

楓が何となく素っ気ないと思ってる時のイベント。綾音にとっては大事なイベントだった。

『空いてるよ？どっか行くの？』

『ん〜。行きたいけどお…。バイト…が…。でも、休み中にパーティするんだって！だから、綾音にも来てほしくて…。ダメ？』

ちょっと照れ気味な楓。変に真面目な楓は、頼まれると断れないみたいで……。

『それ、一枚で“2人、OK”みたいだからさあ、誰かいたら一緒に来なよ。』

『楓…、綾音の相手してくれる？』

『時間があれば？多分、大丈夫だと思うんだけどお…。』

『楓の、仕事してるとこ見てみたいから行くよ！につ。』

『そっか。んじゃ、楽しみにしててね。につ。』

・

今日は、何の洋服着ようかなあ…。楓、“可愛いねっ”とか言ってくれるかなあ…。うふっ。自分の世界に入ってる綾音でした…。

綾音は、梓と友達合わせて4人でショッピングに向かう事になった。

夕方になり…

海と夕陽が綾音達を迎えた。

夕陽がお店を照らす、凄くキレイなお店。海が見える場所にある、楓の働くお店。

『あのお…、招待状もらいましたえ…。』

『はい。いらっしやいませえ。あちらの方から入れますよ。ごめ
つくりどうぞお。』

受付のお姉さんに招待状をわたし、奥え向かった。

『お姉さんキレイだったねえ。』

『ホント、キレイだったあ！』

キャツキヤ言いながら歩いていった。

メインルームに入った。綾音の前に広がる美しさ…

お店の窓は全面ガラス張り、夕陽のステージだった。外は、ウツドデッキに、水平線に広がる夕陽のライン。

綾音は、あまりの光景に言葉を失った。

『ねっ！外でてみよ？』

外は、大自然のパノラマ。高台にあるお店は、180°の大パノラマだった。

『わあ！』

思わず声が…。すかさず口に手をやる綾音。

うわああ…、見られてるう…。早く、楓探さないとお…。

あ！楓だあ。

一生懸命仕事してるんだあ…。少し楓の事を見ていた。見とれてた？そおつと近づき…

『ボーイさん？ちゃんと働いてるかなあ。』

ちよつとイタズラ混じりに話しかけてみた。

『はい！ちゃんと…！あ、綾音かよ！おどかすなよ…。良くきたね。待ってたよ。ゆっくりしてっつね。』

なんか、いつもと違う…。楓、大人っぽいなあ…。えへっ

『うん！…楓？』

『ん？』

『楓君？ちよつと来てよ！』

『あ！はい！』

え…

楓は、走って行ってしまった。

あゝあ、行っちゃったあ…。どうしよあ…。みんな、どこにいるのかなあ…。んゝ、ちよつと待ってよかなあ。

綾音は、楓の事を見ていた。

あ。楓！大変そうだなあ…。お客さんに絡まれてるう…。可哀想だなあ。

うふっ。楓、パシツとした服装って見たことなかったなあ。カツコいい。

サーフィンしてる人ってキレイな人多いなあ…。

綾音は、周りをキョロキョロと人間観察をしていた。

ふと、楓の方を見た。

綾音の瞳に映った現実！

綾音は、見たくない現実をまざまざと見せつけられたのだ…

え……

明菜が楓にキスをしていた…。

え…、ヤダよ…、そんなの見たくないよ…。

綾音は、目を背き、その場を離れた。

梓！どこ？……！

『梓？ごめん…。ちょっと用事思い出しちゃって…。帰るね…。』

『え？どうしたん？』

綾音は、走って帰ってしまった。

え？綾音、今、目に涙浮かべてた…。何かあった…！追いかけるな

いと…！

梓も、友達に訳を言って、綾音を追いかけた。

すぐに追いかけたおかげで、綾音はすぐ見つかった。

『綾音！待って。』

綾音は、梓の顔を見た瞬間、瞳から大粒の涙がこぼれ落ちた。

梓は、近くのベンチに綾音を座らせた。

何も言わず、ただ黙って綾音の傍にいた。

『大丈夫？』

『……。』

綾音は、何も言わず、ただ頷いた。

綾音の横にちよこんと座り、頭を撫でて気持ちが落ち着くまで寄り添っていた。理由は聞かなかった。だいたい事はわかっていなかった。

『綾音？』

『……ん？』

『私は、何があっても…、綾音の味方だからね…。』

『うん!』

綾音は、また、泣き出してしまった。

この時の夕陽は、とてもキレイな夕陽だった。残酷なまでに切ない2人を照らし続けていた。

綾音?泣きたい時は、思いっきり泣こ?イヤな事は、みんな流して...。

梓も、泣きたい気持ちをこらえて、綾音に寄り添っていた...。

続編 2人の距離

切ない夕陽 1

続編 2人の距離 切ない夕陽 1 (後書き)

読んで頂きまして有難う御座います。綾音の親友、梓が……。良い子だねえ。切ない気持ち2もありますので、よかったら読んで下さい。有難う御座いました。

夕陽は太陽

続編 2人の距離 切ない夕陽 2（前書き）

切ない夕陽の後編です。綾音の気持ちをテーマにした作品です。よ
かったら読んでみて下さい。

夕陽は太陽

続編 2人の距離 切ない夕陽 2

夕陽が水平線に沈む頃…

綾音は、梓と別れ一人寂しく歩いていた。

歩いてくにつれて、空も薄暗く…。

気づいたら、いつも楓と一緒に話していたベンチ…。

綾音は、このベンチに一人で座っていた。

海の匂い…、波の音…、ココって良い場所だったなあ…。

あ…。夜空キレイ…。

楓と、星空見たなあ…。

空いっぱい星が広がって…。

そういえば、中学の時、楓と優希と真田君と海行ったなあ。真田君、優希におもいつきり叩かれて…。クスッ。

真田君、優希にゆうちゃんゆうちゃんって言われててちょっと照れてたなあ…。

夕陽は太陽

そうだあ、花火だったんだあ！楓と真田君！屋台で勝負って…。楓、全然勝てなくて…。クスッ。

でも、チヨコバナナの際は、ちょっと照れちゃったなあ…。

その後、真田君と優希、付き合う事になったんだよね。

あと、お花見…。

“あやちゃん？2人も付き合っちゃえば…”

ふと、優希の言葉を思い出した…。

優希？綾音、どうしたらいいかなあ…。

優希…。優希…

綾音辛いよ？辛いんだよ！何で、こんな時にいてくれないの？

『優希い…。』

綾音は、泣きながら海に向かって叫んでいた…。

あ…、ごめんね。優希に、こんな事言ってもしょうがないよね…。

あやちゃん…、信じてあげなよ…

え……。

今……。優希？

不思議と、優希の声が聞こえた気がした……。

優希、あ……、ありがとう……ねっ……。綾音を……グスツ……見守っ
……ててね……グスツ。

綾音は、優希と共に、思い出のベンチでもいきり泣いた。

綾音は、優希に“また、来るね”と……

夜空を見ながら歩き始めた……。

ふと、気づいたら……。楓のお家の前にいた。なんでだろ……。誰か
に招かれるかのように……。

……。

ココにいれば、楓に逢える気がしていた……。

綾音は、楓のお家の前で座って待っていた……。

タツタツタツ…

すると…。遠くから走ってくる足音が…。

…楓。

汗びつしよりの楓が…、綾音の目の前にいた…。

楓を見た瞬間…。大粒の涙が…、こぼれ落ちた。

『綾音！ごめん。』

楓は、深々と綾音に頭を下げた…

楓…、そんなに汗かいて…。綾音の事を？

楓が頭を上げた時…！

綾音は、無意識のうちに楓にキスをしていた…。

あ…。

恥ずかしい…

綾音は、その場から走って離れた…。

・
・

でも…。

楓は、あの女の人と…。

不安な気持ちは変わらなかった…。

ただ、楓が綾音の事を必死で探してたのは、凄く伝わってきた綾音だった。

っと、考えて…眠れずにいた綾音でした…。

…楓と“キス”しちゃったあ…。キヤッ。やっぱり寝れないようです。

後で思いました。多分、楓のお家に招いたのは、優希。

優希のおかげで少し不安な気持ちが薄れた気がしました…。

ありがとうね！優希…

続編 2人の距離 切ない夕陽 2（後書き）

読んで頂きまして有難う御座います。思い出に浸る綾音。優希に対する思いが優希を蘇らせたのかも……。楓の感じた事と綾音が感じた事が違うのが……。また、次作も、宜しくお願いします。有難う御座いました。

第8話 不安な気持ち（前書き）

いつも読んで頂き有難う御座います。今回の作品は、綾音の事を思うあまりにちょっとした事が…。良かったら読んでみて下さい

第8話 不安な気持ち

俺は、考えていた…。

綾音は、なんで“キス”をしたのかを…。

考えれば考える程、不安はつのっていった…。

休みは終わり…

なんか、学校行くの…ヤダなあ…。

正直、どんな顔して逢えばいいかわからなかった…。

．．．

ガラガラっ…

『おはよっす…』

『おう！楓っ。』

いつも、この時間にはいるはずの綾音が、今日はいなかった…。
こういつ時、どうしてもネガティブに考えてしまっ…。

やっぱ、俺と逢いたくないんかなあ…。つれえ…

『裕也？…あのさあ…、綾音は？』

何気に、綾音の事を探る楓。

『んあ？知らねえ…。まだ、来てねえぞ？』

まあ…とりあえず席に着いた。

・
・
・

結局、綾音は学校には来なかった…。

『裕也？わりい！今日、バイト休み！マスターに言っというて！んじや先帰るわ…。』

『な、な、なあ？』

かなり、綾音が心配で、いてもたってもいられなかった…。

結局、綾音の家に来てしまった…。

子供の頃は、良く来た家。中学、高校と年を重ねるにつれ、行かなく…、行きにくくなっていた…。

もちろん、親もひなたちゃんも知っていた。いつも思う…。チャームを押す時の勇氣…。

ガチャ！

『あ！楓お兄ちゃん！』

ビックリした…。ひなたちゃんだった…。

『よっ！久しぶりだね。ひなたちゃん！』

『うん！どうしたの？』

『ん？ああ…。お姉ちゃん…いる？』

『いるけどお…。今、寝てるよ？ひなた、お姉ちゃんの看病してるんだよ？凄いでしょ。にっ。』

綾音は、体調を崩していた。それで、学校を休んだのだ。

『あれ？ひなたちゃん、どっか行くの？』

『うん！友達のお家行くんだあ！またね！』

あれ…。看病してるんじゃない…。

ん…。上がったちゃって良いのかなあ…。

と、言いつつ上がってしまった俺…。

久々入ったなあ…。懐かしい感じだった。

綾音の部屋の前に来てしまった…。

何か、ドキドキしてきた…。

『あ、綾音？俺、楓だけど…。』

返事が…ない…。

ガチャ！綾音が出てきた…。

『どうしたの…ひなた…！あ…！』

綾音は、寝ぼけていたのか…俺の事を、ひなたちゃんと間違えていた。

いきなりの訪問。

髪の毛サボサで、可愛いパジャマ姿の綾音が、俺の目の前にいた…。

やっぱり、まずかったかあ…。案の定…

『キヤツ！何で？何で楓いるの？もうやだあ…。』

綾音は、急いで部屋に入りドアを閉めた…。

『ごめん…。さっき、ひなたちゃんいて…、綾音、心配だったから…。ごめん…。』

綾音と、ドア一枚挟んで会話をしていた…。

『具合、大丈夫か？』

『う、うん…。』

『なら良かった…。ただ、それだけだから…。ごめんな？』

楓は、少し、ホツとした感じで階段を下りた。

『楓？ごめんね…。来てくれて…。嬉しかった…。ありがとう…。』

綾音は、部屋に入ったままだった。

『お、おう…。早く治して学校来いよ！』

楓は、家を出た…。

綾音は、楓が見えなくなるまで、窓から楓を見ていた…。

たいした事、なくて良かったと思う楓…。

いきなりの楓！ドキドキが止まらなかった綾音…。

ありがとう…。楓…。

この時、綾音の中の、嫌な出来事は、どこかえ行ってしまった…。

第8話 不安な気持ち（後書き）

読んで頂き有難う御座います。お互いに好きなのに、前に進めないのが辛いところ…。また、宜しく願います。

夕陽は太陽

『おはよ！綾音です。あのおく、携帯買いました。やったね。』

綾音は、一生懸命バイトして、やっとの想いで買った初めての携帯。嬉しかったのは、言うまでもない。

学校行ったら友達に教えよ！

最初は、楓だけだね。

今時、携帯持っていないのは珍しく、かなりレアな綾音。

『おっはよお〜！』

テンションMax！

朝、早めに来た綾音は、楓の事を待っていた。

『綾音、おはよ〜！』

元気良く挨拶してきたのは、梓だった。

『あ！おはよ。梓、あのね？………！』

嬉しさの余り、思わず言っけししまいそうな綾音。

『ん？なになに？何かいい事合ったん？』

『ん〜。携帯買ったんだあ。につ!』

嘘を付くのが嫌いな綾音。梓には、正直な気持ちを伝えた。

『そっかあ…。んじゃ、私は二番目に入れてね。ニコッ。』

ちょっと可哀想な事、しちゃったかなあ…。

キーンコーン

カーンコーン

また、遅刻…。

『すみません!おはようございます。廊下、立ってます。』

先生も、呆れを通り越して言葉がでなかった。

『三神!もつと早起きなさい!今日は、大事な話があるから…、はあ。早く席に着いて。』

『そうすか!』

何も考えてない楓でした…。

『今日、皆に伝える事は、来年行く予定だった修学旅行が、今年の6月、つまり来月になりました。また、改めて親族等、プリントを用意します。前もって伝えておいて下さい。』

ザワザワ…。

思いもよらぬ出来事だった。

ツンツン…

綾音だ！楓は、後ろを振り向き…

『何だよ…』

『おはよ。ニコッ。旅行、楽しみだねえ。』

『そうか？何か、面倒だな…』

楓は、あまり集団行動が得意ではなく、気が進まなかった。

『何ですよ！プンプン！綾音は、凄く楽しみだねえ。にっ。』

だって、楓との思い出つくるんだもんね！

『楓？』

『なに？』

『今度、一緒に買い物行く？旅行に着ていくヤツ！』

『え〜。』

『行くぞ！わかった？』

『はい…』

俺っていつたい…。

具合も良さそうだし、前の出来事は気にしてなさそうだし、綾音の笑顔が見れればいいか。

HRも終わり…

『楓、楓！』

ちょっと照れた感じの綾音。モジモジしながら楓に話かけた。

『ん？どしたん？モジモジしちゃって…！トイレ？』

『バカ…。違う…。これ、楓に見せたかったの…。』

綾音は、バイトをして買った携帯電話を、少し照れながら楓に見せた。

『お！携帯！ついに持ったんだ！あははっ！よかったね！』

『うん！でね？楓の番号、最初に入れてあげようかなあって思ったの…。教えて？』

『いいけど…。俺でいいのかなあ…。』

『いいのお！』

綾音は、ニコニコしながら登録すると…。『じゃあね。』と言って、皆に聞き回った。

あららっ…と、思いながらも微笑ましい綾音だった。

嬉しいんだなあ…。

学校も終わり…

『帰ろ？楓っ。』

『おう。』

珍しく休みが重なった楓と綾音。

久しぶりに、一緒に帰る事になった。

『楓？なんか、久々だね！一緒に帰るの…。』

『そうだね…。』

久々つてのもあって、少し緊張する2人。

ゆっくりと海沿いを歩いていた。

『やっぱり、一人で帰るより…、楓と帰る方がいいな…。』

『……。』

正直、なんて言っていないか言葉が見つからなかった…。

『綾音？ベンチ座る？』

『うん。』

今日も、夕陽は俺達を見つめていた。

風が心地良い…

『楓？』

綾音は、夕陽を見ながら語り始めた…

『楓が、あの女性とキスした時、綾音、ショックだったよ？』

……。やっぱり…。

『その時ね？綾音、一人でココに来たんだ…。』

……。楓は、黙って綾音の声に、耳を傾けていた。

『色々な事、思い出した…。頭の中で、ずっと考えてたんだ…。』

うん…。

『そしたらね？…。』

…？楓は、ずっと綾音の顔を覗き見た…！

夕陽の光に照らされる綾音。頬に流れる涙がダイヤのように輝いて見えた…。

『そしたらね？優希がね……。楓を信じてあげたって……。』

『うん。』

大粒の涙を流す綾音。

俺は、ベンチから立ち上がり、前の柵に手をかけ、夕陽を見ていた……。

『優希がね？……綾音の事、ずっと……見守っててくれた！……。楓の事、信じてって……。』

『……。ごめんな？』

！……！

綾音は、泣きながら楓の言葉に耳を傾けた……

『俺、今までずっと……。勇気がなくて……。いつも、綾音の事、傷付けてばっかで……。ごめんな。』

そっか……。優希が……。ありがとな……。優希。俺にも、勇気貸してくれよ……。

『俺、頭の中にいつもお前がいるんだ……。昔から……。気になってしよつがなかった……。』

綾音は、涙が止まらなくなっていた。

『ずっと前から…、綾音の事が…、

楓君、頑張ってる…

優希…、ありがとう…。

綾音の事が…大好きです。』

『…、信じてて良かった…。良かったよ…。ずっと待ってたんだよ…。楓の事、ずっと…。』

綾音は、楓に抱きつき、泣き続けた…。

夕陽に照らされる2人。

泣きながら抱きしめ合う2人。この日が、2人の最高の思い出の場所。

きっと、夕陽を見る度に思い出すでしょう。

そして、ココにすれば、太陽のような笑顔の優希に逢えるでしょう。

夕陽は太陽

信じていれば必ずかなう思い。それを、楓と綾音が教えてくれた。

あやちゃん？

楓君？

おめでとね…

この思い出の場所…。夕陽は太陽。

夕陽は太陽（後書き）

今まで、読んで頂き有難う御座います。楓が告白！…自分で読み返して“へタだな”って…。でも、また楓と綾音のこれからを書いて行きたいと思ってます。その時は、宜しく願います。有難う御座いました。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6400b/>

夕陽は太陽

2008年11月7日08時38分発行